

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年12月23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502934		
法人名	有限会社ひよし		
事業所名	グループホーム ひよし		
所在地	〒721-0972 広島県福山市日吉台3丁目13-7 (電話) 084-948-6117		
自己評価作成日	令和3年11月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=3471502934-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=3471502934-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 3年 12月 23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームひよしは日吉台という静かな住宅街にあります。開設して17年になりました。敷地内には草木がたくさんあり、季節の移ろいを楽しみながら穏やかに生活しております。理念に掲げているように家庭的な雰囲気を大切にし、生き生きと笑顔いっぱいの暮らしができるように創意工夫を心掛けて日常生活のお手伝いをしています。コロナ禍で今までのように地域や近隣の事業所とのネットワークを図ることが、出来なくなりましたが、家族の方・医療機関との協力体制も充実しております。今後もコロナに振り回されることなく、業務継続ができるよう、また地域の人に開かれた事業所としての役割を常に意識しながら地域や家族との繋がりを推し進めていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームひよしは、高台の静かな住宅街に位置しており、眼下に住宅街が一望でき、広がる景色や季節の移ろいを楽しみながら生活している。理念として「人間としての尊厳」「家庭的で暖かい雰囲気」「能力に応じた自立支援」を事務所に掲示し、常に意識し、利用者がいつも安心して自分の居場所として過ごせるように支援している。コロナ禍で地域や家族との交流の機会が持てない中で、利用者の様子を知ってもらおうと、毎月、写真付きの事業所便り「みんなちがって、みんないい」を送付し、毎月、担当職員が近況報告を記載した手紙を送って、家族が意見や要望を言いやすい雰囲気作りに取り組んで、運営に反映させている。外出が少ない中で事業所周辺で出来る事で、天気の良い日には、庭に出てベンチで寛ぐ、日光浴や外気浴、季節の花等の鑑賞をして、気分転換し楽しめる様に職員が一丸となって取り組んでいる。

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着を踏まえた理念とはなっていないが、ユニット内研修や個人の年間目標を立てる際に理念を踏まえた内容で目標を立てている。実践重視で取り組みお互いの意見を共有している。	事業所独自の理念として「人間としての尊厳」「家庭的で暖かい雰囲気」「能力に応じた自立支援」を事務所・面談室・各ユニットに掲示して、確認し共有している。他にユニット目標・個人目標を立て、振り返りを行っている。ユニット会議で月2回理念について、又、個人目標について前・後期話し合い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	コロナになって地域とのつながりが希薄になった。日常的には交流できない状況である。	町内会に加入していて、夏祭りや文化祭に参加したり、作品展に利用者の作品を出品していましたが、コロナ禍で中止になっている。最近、小地域ネットワークの近隣の事業所(グループホーム・小規模多機能事業所等)が集まって、入居状況等を連絡し合っている。新型コロナ感染が終息したら、以前行っていた、市民センターでの健康体操・災害・身体の健康・食育・百才体操等、又、中学校の職場体験を受け入れたり、地域のボランティアの方のフラダンス・日本舞踊・二胡・大正琴・手品等を再開し、地域の方と交流したいと思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自施設の感染予防を優先したため、地域貢献は行っていない。今後感染状況に振り回されることなく、どんな事ができるのが課題。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2020年、2021年とコロナ感染予防の為、運営推進会議の開催は中止した。運営推進会議の代わりに、感染予防対策に注力した。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員・学区連合会・東部保健福祉課・消防署・他事業所・職員等が参加して、2ヶ月に1回開催していたが、新型コロナ感染予防の為中止し、感染症予防研修と消防訓練等を2ヶ月に1回実施し、記録に残している。コロナ対策の感染管理特定認定看護師に來所頂き、より詳しく専門の方の研修を受けている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町との連携は感染状況によるが、小地域ネットワークでの集まりでお伝えしている。2020、2021年と参加ができないことが多かったが最近リモートの導入で参加者が徐々に増えている	市担当者とは、直接出向いて更新の手続きを行ったり、電話で相談し助言を得る等、日頃から協力関係を築いている。小地域ネットワークグループとして、近隣事業所・市社会福祉協議会・地域包括支援センター職員とは、コロナ禍なので電話等で情報交換を行う等、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	GHひよしは身体拘束をしないケアを宣言している。今までは別々のユニットで研修していたが、今年リモートで全体学習会を実施し、ラインも活用しながら日々の実践につなげられるよう振り返る機会を設けている	職員は、身体拘束や虐待についての研修を受け、3ヶ月毎の身体拘束等適正化委員会をリモートで開催し、事例を挙げて検討会議を行い、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックがあった場合は、職員間で注意し合ったり、管理者が直接指導している。玄関は施錠しているが、外出したい利用者がある場合は、職員と一緒に出かける等工夫し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で学ぶ機会を持つようにし、MTGで話し合う場を設け、理解や実践に努めている。グレーゾーンの理解など、スタッフの言葉や関わりが影響し症状の悪化を招くことや虐待の芽を摘み取る“不適切なケア”への理解も深め、一人ひとりの感想もスタッフ全員が目を通すようにしている。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	学ぶ機会はできてないが、身内の方が必要性を感じ、すでに利用されている方がいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学時・入居時に管理者が説明し、納得や了解を得ている。十分な説明と一度ご本人さんを交えて見学等を勧めており、不安が少しでも解消できるように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に家族を交えてお茶を飲んだり、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。面会時等、何でも言って頂ける関係づくりを日頃から心掛けており、会議や朝の申し送りでも共有している。	面会時や電話等で、家族からの意見や要望を聞いている。玄関に、意見箱を設置している。毎月、写真付きの事業所便り「みんなちがって、みんないい」を送付し、毎月、担当職員が近況報告を記載した手紙を送って、家族が意見や要望を言いやすい雰囲気作りに取り組んで、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度の定例会ではユニットごとの状態を伝える場を設け、把握や改善に向けて話し合いをしている。	管理者は、毎日の朝礼・夕礼、定期的実施されるユニット会議や日々の業務の中、ラインで意見の収集等、意見や提案を出しやすい様に、傾聴の姿勢を心がけている。そこで出た意見や提案は検討し、運営に反映させている。業務改善(利用者のケア)や勤務時間の変更等、職員からの提案や意見は、その都度話し合っ、運営に反映させている。	現在も行っていますが、更なる高みを目指して、ラインで意見を収集し、日々の業務の中や会議を開催して、職員の意見や提案を運営に反映させる事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月の定例会で管理者・主任が各ユニットの状況などを随時報告し、人事考課ではスタッフの意見を取り入れるような取り組みをしている。各自が向上心を持っての働けるよう年間目標計画の振り返りは毎月行っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	希望する研修や講演会参加の体制であったが感染予防の為、外部研修は控えている。Zoomの使い方が定着し、今後はzoomでの研修で現場に活かせるよう環境づくりでありたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修会や小地域ネットワークでは近隣の事業所が集まった際、情報交換や勉強会を行っている。感染予防の為、最近はりモートでの会に移行している。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	レクリエーションの時間帯などに合わせて、本人様にも一度ホームを見学して頂き、雰囲気を感じて頂きながら会話を勧め、要望などを引き出していたが、感染予防の為最近では家族や施設職員からの直接の聞き取りが主体となっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族から初回面会時に困っていることをお伺いしている。初期の段階では気持ちの変更もあるため、リラックスできるような話し方や傾聴しながら会話を進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族より状況・状態をしっかりお聞きし、必要な支援を分析している。在宅サービスの種類を知らない人もいらっしゃる為、内容に合わせて近隣の事業所の紹介も併せて行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	研修を通して理念を念頭に置き、グループホームは尊厳を重視し、言葉づかいを意識した対応や、本人のできることを見極め、共同作業を促す等、暮らしを共に助け合う関係づくりをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に本人の状態を詳しくお伝えし、介護記録も見て頂き情報交換を行っている。家族との絆を深めるためにも日々の生活を写真に納め、面会時に見ていただきながらエピソードを伝えるなどのコミュニケーションも大切にしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	帰りたい気持ちの強い方や面会の少ない方でも電話で極力声をかけ、気軽に着てくださるよう援助している。知人・友人等どなたでも訪問しやすいようなホームであるよう日頃の様子をお伝えしている	家族・知人とは、リモートを活用しての面会や、窓越しでの面会をしている。手紙や電話での、交流を支援している。これまで、利用者が培ってきた人間関係や、場所等を本人や家族より把握し、付き合いを続けられるように声掛けし、馴染みの人や場所との関係が継続出来る様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性の関係や難聴の方もおり、口調が強くなることもあるが、作業や会話を通して仲良く、時には音楽をかけるなど穏やかな関係が保てるよう援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、地域のスーパーで突然お会いすることが多く、気軽に話して下さる。時には入居相談の紹介もあった。在宅復帰された方は現時点ではないが、施設同士の連携はあり、相談や援助に努めている。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	傾聴はもちろん、発語の困難な方についても生活や行動の把握、非言語コミュニケーションを重視し、小さな変化や新たな発見に気付けるようスタッフ間での情報の共有に努めている	入居時にアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中で、利用者の言葉や想いを「介護記録」に記録し、想いや意向の把握に努めている。職員間で意見交換を行い、利用者の思いや希望(ギョーザ等を食べた)の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族に相談したり、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族より情報収集した生活環境や生活歴を参考にしていく。サービスをすでに利用されていた生活状況や居宅のケアマネにも情報の提供をお願いしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録にて日々の現状の把握が伝えられ、申し送りやユニット会議で共有している。毎日の小さな気づきの感性にもスタッフの取り組みで日々の生活につなげている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントで現状を踏まえ、本人、家族・各担当にて要望・助言を頂きながらアイデアを出し合い、作成に取り組んでいる	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、本人や家族の思いや意向をふまえ、医師や看護師、薬剤師、管理者の意見と、日頃の記入した「気持ちシート」を参考にして、カンファレンスを実施して話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にユニット会議でモニタリングを実施し、6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。利用者の状態の変化に応じて、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々入居者と関わりながら、ちょっとした言動や気づき等を気持ちシートや危険予知シートに記載し、ケアプランに反映しながら実践につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一日のスケジュール的なものはあるが、心身の状態に合わせて食事・入浴時間等、臨機応変に個別の対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	買物同行援助を行っていたが、感染予防対策からスーパーでの買い物や地域の行事に参加はしていない。個人が暮らしの中で楽しみを感じられるよう援助している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診で病状の安定を図っている。往診時には必要に応じて家族への同席をお願いし、つながりを大切にしている。	本人や家族の希望のかかりつけ医とし、月に2回の訪問診療がある他、希望に応じて歯科の訪問診療も行っている。他科受診は家族中心だが、事業所も支援している。日常の健康管理は看護師が行い、バイタルチェック表(経過表)で、健康観察を実施している。24時間オンコール体制であり、緊急時や夜間でも協力医療機関と連携を取り、適切な医療が受けられるように支援している。	

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急時の対応・情報の共有・相談において、異常の早期発見・予防に努めるようにしている。医療的な相談はもちろん、介護スタッフの対応にも助言していただき、支え合う関係で援助している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後にスムーズに生活できるよう、注意点を退院前に引き継ぎ、本人・家族の意向を聞きながら連携をとっている。入院時も定期的にお見舞いに行き、普段の様子をお伺いしながら情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時の段階で家族に説明をし、本人・家族の希望の元、ホームでの可能な対応を説明している。夜間の往診、訪問看護も受けられるような体制をとっており、医療・家族との連携で家族の気持ちに寄り添いながら援助している。	契約時に、重度化した場合や終末期における事業所の対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から、本人、家族、かかりつけ医と相談し、医療機関への入院や特別養護老人ホームへの移設を含めて、方針を決めて、全職員で共有して、支援に取り組んでいる。本人にとって最良の選択が出来るように、支援に取り組んでいる。看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	いざというときに慌てず、対応できるようマニュアルを常備し、迅速に行動に移せるよう、定期的に集団研修で学習している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の火災訓練は定着しているが、消防署の職員の参加は控えており、独自の訓練で行った。昼間・夜間を想定し、スタッフ全員が最善を尽くしている。	今迄は、消防署が来所して避難訓練を行っていたが、新型コロナウイルス予防の為、年2回とも事業所が自主的に避難訓練を実施しており、昼夜間想定火災通報・消火・避難・誘導訓練を、利用者も参加して実施している。水消火器の使い方等、利用者も参加して、訓練している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設に入所するということはどういうことか？を全体学習で学びお互いがユニットで実践できるよう、個人を尊重し、安心感を与えるような言葉使いの配慮に注意している。理念を念頭に置き、本人の自尊心を損ねることがないように心掛けている	職員は、接遇研修で学び、利用者お一人おひとりの人格の尊重や、プライバシーの確保について理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。利用者の個人情報も、適切に保管され、守秘義務は職員間で徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを多く取る関わり方で思いや希望を引き出しやすい環境づくりを心掛けている。発語がこんな方については表情から思いをくみ取るよう働きかけ、スタッフ間で情報を共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者1人ひとりが生活の主体である事を念頭に置き、思いを尊重するように心掛けている。何か困った事があるか？今日何が食べたいか？など。反対にその日や気分が乗らなくても、本人の体調やペースを尊重し、援助している。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の好みの洋服はもちろん、帽子やアクセサリーの着用をすることで気持ちが晴れやかに、コミュニケーションの活性化につながっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者とスタッフは同じものを食べているが、スタッフ食事の時間をずらし、感染予防に努めている。スタッフはマスクをし、依然と変わらず、会話をしながら楽しい食事時間となるよう努めている。また可能な方は洗い終わったトレーやテーブルを拭いていただく等の作業をお願いしている。	食事は、3食とも事業所で作り、毎日の献立は、季節の食材を利用している。時には、レトルト食品も使用し、食材の幅を広げて食されている。日々の食事作りについても、野菜の皮むき、きざみ、米研ぎや味噌汁等の味付けの確認、盛り付けや配膳等、入居者お一人おひとりの動作や心身の状況に合わせて、引き出すように工夫している。おやつ作りでは、ホットケーキ作りで、クリームやフルーツ、チョコ等をトッピングしたり、スイートポテトや餃子作りをして、楽しく食されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個別に食事・水分量のチェックを行っている。少ない方に対しては食べやすい形態や好きなものなど、その都度工夫し、提供している。嚥下状態が悪い方は食事前の嚥下体操やロミを使用するなど、食べられる口を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛け・誘導にてスタッフの見守りの中、自力での洗浄や介助にて毎日の口腔内の清潔を援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿・便秘なくとも日中は立位の可能な方はトイレでの排泄に繋がるよう誘導し、座るよう促している。間隔の空いた方は声掛けの配慮を行い、スムーズな排泄に繋がるよう援助している	排泄チェック表を活用して、利用者お一人おひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を工夫して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。排便の難しい利用者には、食事内容を考慮したり、排便コントロール(薬の使用・摘便)を実施し、スムーズな排便が出来るように支援している。又、個々に合わせた適切なパット対応も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	間隔の空く方は、食品にて腸の働きを促し、活性化を図っている。乳飲料や食物繊維の多い食べ物の摂取し、薬だけに頼らないケアに努めている		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人が入浴を楽しめるよう、音楽を流したり、壁にキャラクターのシールを貼る等、遊び心やコミュニケーションをとりながら、リラックスできるような援助をしている。体調や気分も考慮し、曜日の変更も臨機応変に行っている。	入浴は週2～3回で、お一人おひとりの希望やタイミングに合わせてたり、入浴剤を使用したり、音楽を流したりして、職員との会話でリラックスして、入浴を楽しめるように支援している。利用者のその日の体調や希望によっては、2人体制で対応し、清拭や足浴、シャワー浴等に対応している。入浴したくない利用者には、タイミングをずらしたり、職員を変えて言葉がけする等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	気持ちよく眠れるよう、寒暖の調節、状態により体位変換を行っている。興奮して眠れない方には傾聴を欠かさず、落ち着くまで傍で寄り添い、安心感のもと、ベッドで休んでいただく等、環境設定を行っている。		

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅療養管理指導も受けており、内服薬の説明はもちろん副作用や症状の変化にも常時相談ができるよう連携の確保ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人や家族より今までの生活歴から情報を収集し、個々の趣味や生きがい等、昔行ってきた事やそれに近いことができるような場面の提供を行い、喜んでいただけるような時間の共有や自身につなげている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの感染者数にも左右されるが、感染者数の少ない時に家族対応でお願いしている。外食や外出を楽しみにされている方は好きなものを食べに行っている	新型コロナ感染予防の為、外出は極力避けている。事業所周辺で出来る事で、天気の良い日には、庭に出てベンチで寛いだり、日光浴や外気浴、季節の花等の鑑賞をして気分転換し、楽しんでいる。事業所に移動パン屋が来て、会話を楽しみながら、利用者は、自分の好きなパンを購入して、食されている。又、事業所内を清掃したり、洗濯物を畳んだり、ユーチューブを利用して、テレビの画面に移る体操を一緒に行ったり、演歌を聞いて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人や家族の希望により、希望のものがあれば買い物援助していたが、現在は家族にお願いしている。また本人自身での管理を希望される場合は家族の了解のもと行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも家族に電話できるよう、携帯電話の持ち込みをしているが使用することが少なくなってきた。家族から直接かかってくることが多い。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な雰囲気を大切にしつつ、混乱を招かないよう分かりやすくポスターを貼ったり、季節の飾り付けや本人の色を付けた塗り絵やホームでの生活の写真や飾りなど、工夫して取り組んでいる。	明るく広いリビングは、台所から調理の音や匂いが漂って生活感があり、職員からも利用者からも声をかけやすい雰囲気になっている。フロア壁面には、利用者と職員が一緒に作成した季節毎の作品（折鶴で花を作成した作品・ちぎり絵等）や、日頃の様子の写真が掲示されており、クリスマスツリーを飾り、落ち着いた雰囲気作りに取り組んでいる。又、観葉植物や季節の花を飾り、季節感を感じられるようにしている。加湿器を設置して、温度や湿度に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自席でゆっくりくつろいだり、ソファーに腰掛けてテレビを見たりお昼寝したりなど、好きなように過ごしていただいている。クッションや足台、マッサージ機等も自由に利用していただいている。最近ではクロムキャストの活用で、YouTubeに繋ぎ、好きな歌手や俳優のリクエストが多い。YouTube体操でテレビを囲み体操にも毎日励んでいる。		



グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使い慣れたものを持参していただいている。家族や孫の写真や使い慣れたバッグ、時計・化粧品・アルバム等馴染みのものや思い出のあるものが居室にあることで、心地よく過ごしていただけるよう援助している。	入居前の生活環境を参考にして、レイアウトの配置を決めている。家族写真・時計・アルバム・バッグ・化粧品・椅子・衣装ケース・母の日の花等、馴染みの物や思い出のある物が持ち込まれ、お一人おひとり居心地よく過ごせるように配置し、置き場所にも工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	目的地にスムーズに辿り着きやすいよう、各室ドアには文字や記号で示すなど、混乱しないような配慮を行っている。電気のスイッチも文字で示すとその都度聞かれることが少なくなった。		

グループホーム ひよし

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており信頼関係ができています。	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム ひよし

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひよし

作成日 令和3年12月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	11	コロナ禍の中、スタッフの精神面において疲弊を感じる時がある。働きやすい食場づくりを今一度考えたい。	職員の声に耳を傾け、話し合いの場を設け、働きやすい職場環境を作る。	毎月の定例会までに職員からの意見を集め、全体として話し合い改善策を立てていく。	令和4.4月～令和6.3月
2	12	入居者の重度化と共にスタッフの年齢層も上がっている。施設の存続に危機感を感じている。	勤務状況・労働時間・やりがい・時間の仕組み化・効率化等、今一度見直す。	毎月の定例会までに職員からの意見を集め、全体として話し合い改善策を立てていく。	令和4.4月～令和6.3月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。